

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 宮城福祉会
施設名	仙台岩切あおぞら保育園
報告者（役職）	齊藤 彩（主任保育士）
住所・連絡先	宮城県仙台市宮城野区岩切字三所南 1－2
	☎ 022－290－7318 E-mail iwakirikids@miyafuku.jp

○タイトル（保育計画）

楽器あそびを楽しもう ～みんなで音と心を合わせて～

○主な助成備品

楽器(カスタネット・鈴・タンバリン・トライアングル・ウッドブロック・木琴・大太鼓・小太鼓・シンバル・ハンドベル)

1. 実施した保育計画策定の目的

本園は平成 24 年 4 月に開園をしました。『愛され、見守られ、喜び合う子ども』『共感し合い、認め合い、育ち合う子ども』『自ら気づき、考え、表現する子ども』を保育目標に掲げて保育をしています。初めて集団生活を経験する子どもたちが多く、生活・遊び、行事等何事も少しずつ積み重ねていく中で、先生や友だちと一緒に過ごしたり、力を合わせて一つのものを作り上げる楽しさを感じられるよう保育にあたってきました。

そんな中子どもたちと取り組んでみたいことの一つに楽器あそびがありました。子どもたちは音が鳴るものが大好きです。おもちゃや先生手作りのマラカス、ミルクの空き缶…何でも振って、叩いて音を出して楽しめます。その楽しさを楽器で経験させたいと思ったのです。

合奏では自分の鳴らす楽器だけではなく、友だちの楽器の音にも耳を傾けて、リズムを合わせます。それぞれが自分のパートをしっかりと演奏し、複数の楽器の音やリズムがうまく響きあったとき、素敵な演奏が生まれます。友だちと音と心を合わせて一つの演奏を作り上げた楽しさ、達成感をたくさん感じて欲しいと思いました。楽器あそびの経験を積み重ねることで、他の場面でも集団の中で自分の役割を果たす姿、自分だけでなく友だちの存在を意識する姿、力を合わせて一つのことに取り組む姿を育み、クラスづくりの基盤にしていきたいと考えました。



【学校や施設に囲まれた恵まれた環境です】

2. 具体的な実施内容

ある日、保育園にたくさんの楽器が届けられました。子どもたちは「それ何?」「知ってる、タンバリンでしょ!!」と興味津々で保育士に尋ねてきました。子どもたちには「これはみんなが楽器を楽しめるように贈って頂いた大切なものなんだよ。」とお話しをしてから使い始めました。

0歳児の赤ちゃんから5歳児の大きい子どもたちまで、各クラスで年齢に合わせて活動や遊びに楽器を取り入れました。特に5歳児クラスのすいか組では定期的に楽器遊びの日を設定し、子どもたちが楽器に触れる機会を作りました。初めは楽器の扱い方や持ち方、鳴らし方等を丁寧に教えていきました。担任保育士に加え、主任保育士も一緒に参加し、子どもたち一人ひとりの姿にしっかりと目を向けて、楽しい気持ちを共感することを大切にできるような体制で行うことにしました。毎回子どもたちからは「楽しかった。先生また楽器やろうね!!」「次はトライアングルがやりたいな。」という嬉しい言葉が聞かれました。

楽器の鳴らし方やその楽しさがわかったところで、みんなで同じリズムを打ったり、楽器ごと違ったリズムで打ったり、歌やピアノに合わせて演奏したり…少しずつ進めていきました。ちょっぴり難しいことに挑戦するのが好きな子どもたちなので、楽器遊びの回数を重ねるたびに上手になっていくことを自分たち自身が実感しながら、意欲的に参加している姿が印象的でした。保育士は正しく演奏することよりも、子どもたちのよかった姿を伝えたり、褒めたりしながら、「楽しい!!」という気持ちを一番にすすめることを大事にしました。

すいか組が楽器遊びをしていると、いつも廊下を通りがかった年下のクラスの子どもたちがうらやましそうに眺めていきます。そこで「お楽しみ会(発表会)でみんなに合奏を披露したらどうかな?」と提案すると、子どもたちはすぐに賛成し、「お父さんやお母さんに見せたい。」と目標に向けてますます張り切って楽器遊びに取り組むようになりました。お楽しみ会ではこれまでみんなで楽しんできた『きらきらぼし』と『ジングルベル』を演奏することにしました。これまで経験した楽器の中から一つの楽器を自分で選んで演奏しました。

お楽しみ会本番、たくさんの人たちの前でステージに立って演奏したときには子どもたちの表情から緊張が伝わってくるようでしたが、大きな拍手をもらい、演奏を聴いてもらう喜びを十分に感じ、自信へとつながった様子でした。



【楽器遊びでの一コマ】



【お楽しみ会でのステージ演奏】

3. その成果と評価

楽器遊びを始めるにあたって「贈って頂いた大切な楽器」ということを話しましたが、子どもたちにどこまで伝わっているか当初はわかりませんでした。しかし、楽器を演奏しているときはもちろんのこと、楽器を片付けるときにはケースにそ〜っと大事そうにしまい、カスタネットは青い面が上になるようにきっちりと並べ……誰に教えられたでもなく子どもたちが行っていることに保育士も驚きました。保育園には「自分のもの」の他に「みんなで使うもの」がたくさんあります。楽器を大切にする経験から、他の場面でも「みんなで使うもの」を大切にすることが増えたように感じます。絵本の棚はいつも気付いた子どもたちが直してくれて、背表紙が同じ方向を向いてきれいに並ぶようになりました。みんなが使っている色鉛筆も全部の色があるか確かめて片付けられるようになり、長く使えるようになりました。

楽器遊びをする中で「楽器は左手、打つのが右手」と覚えましたが、時々間違ってしまうたり、迷ってしまうことも……。そんなときははじめは保育士がそばで教えていたのですが、いつの頃からか隣のお友だちがさりげなく教えてくれるようになりました。また、合奏をするときには自分の楽器をしっかりと演奏しながらも、指揮者にも目を向け、他の楽器の音に耳を傾けることも必要です。はじめは自分のことだけに精一杯だった子どもたちが、周りにも気持ちを向けて友だちを気遣ったり、みんなで一つの曲を演奏できるようになったことは大きな変化、成長でした。保育園ではクラスの友だちはもちろんのこと、年上のお兄さんやお姉さん、年下の赤ちゃん……たくさんの人との関わりが日々あります。その中でお兄さんやお姉さんにしてもらって嬉しかったこと、掛けてもらって嬉しかった言葉を友だちや年下の子に同じようにしてあげようとする姿や気持ちが育っていくのをよく目にします。自分のことだけでなく、周囲を思いやる姿、気持ちが育つのは保育園のよいところだと感じ大切にしています。今回楽器遊びの場面からも子どもたちの思いやりの育ちを感じることができたことは、とても嬉しいことでした。

クラスでの楽器遊びでは数名のグループに分かれて順番に演奏し、互いに聞く場面も設けました。その中で「上手だった。」「きれいに聞こえた。」と互いに認め合う姿がよく見られました。そしてお楽しみ会の練習や本番ではステージで演奏をし、年下のクラスの子どもたちから「すいか組さんすごいね!!」と憧れの言葉を掛けられ、他クラスの先生や保護者からも「上手になったね。びっくりしたよ。」と褒められる経験をしました。認めてもらうことは何よりの自信につながり、また頑張ろうという意欲が湧いてきたようでした。5歳児すいか組では「がんばりマンバッチ」というものを取り入れています。これはその日頑張っていた姿、よい姿があったときに保育士や友だちが気付いて「〇〇していたのよかったよ。」と伝え、胸にバッチをつけてもらえます。バッチがついていると出会った先生、友だち、保護者に「どうしてがんばりマンバッチもらえたの?」と尋ねられるので、更に褒められる経験をします。そういった取り組みもあり、子どもたちが互いのよいところに気付いて認め合ったり、自分も同じように頑張ってみたりという姿がしっかり育ってきていることを感じています。楽器遊びの経験もそのような姿を育てるきっかけの一つとなりました。

楽器あそびを行うことは、単に音楽を楽しんだり、演奏の技術を身に付けるだけでなく、子どもたちの心や態度を育てることにつながりました。本園の保育目標である『愛され、見守られ、喜び合う子ども』『共感し合い、認め合い、育ち合う子ども』『自ら気づき、考え、表現する子ども』をたくさん目にする場面があったと実感しています。



【大切に片づけています】



【小さな子どもたちの楽器遊び】

4. 今後の課題と展望

5歳児すいか組の楽器遊びをいつもうらやましそうに眺めていた4歳児めろん組の子どもたちは「自分たちも楽器がやりたい!!」と言い出し、楽器遊びの時間を定期的持つことにしました。楽器の大切さ、使い方、鳴らし方などは5歳児すいか組の子どもたちが教えてくれました。「左手に持ってね。」「しまうときは優しく入れてね。」と教えられることをとても素直に聞いていました。そして、いつもお兄さん、お姉さんが使っていた楽器を持たせてもらったときの何とも嬉しそうな顔が印象的でした。

保育は日々の積み重ねです。日々繰り返されていく小さなことが、いつの日か大きな変化や成長につながっていきます。5歳児すいか組がお楽しみ会で合奏を発表した姿を見ている4歳児めろん組は自分たちも来年やるんだという憧れとイメージを持って意欲的に取り組んでいます。0歳児いちご組の赤ちゃんたちは遊びの中で鈴をギュッと握って鳴らし、音がなると保育士や友だちと顔を見合わせてにこにこ笑い、楽しい気持ちを共有しています。そんな4歳児めろん組や0歳児いちご組の子どもたちがすいか組になったときに育っていくものは、きっと今とはまた違って、更に豊かなものになっていることと思います。これからの積み重ねの中での変化を楽しみにしながら、これからも子どもたちと楽しく取り組んでいきたいと思っています。



【5歳児が4歳児にカスタネットの持ち方や片づけ方を教えてくれました】